

2022年北京での冬季オリンピック開催期間中にこの編集後記を執筆しています。冬のスポーツを極めたアスリートが集い、白熱した試合が連日続いているのですが、冬季スポーツは走る、跳ぶ、泳ぐなどいわゆる体のみで競い合う種目はなく、必ず雪や氷と接する、あるいはうまく利用するための道具を必要とします。もちろん陸上や水泳などの身一つの競技でもウエアやシューズなどの開発は目覚ましく、それぞれの種目に合わせた発展を遂げています。冬季スポーツではさらに、体と一緒に運動してくれる関連グッズがどれだけ理にかなった洗練された状態であるかが活躍のポイントになります。これらは昨年多くの感動を与えてくれたパラリンピックにおける質の高い義肢や補助具にも通じており、心技体とともに臨床で使用する道具にも妥協せずに極めなければならない点では技術系医師の立ち位置にも似ています。

さて、今回の特集は頸椎椎弓形成術であり、本邦より開発された画期的な頸椎後方手術をアップデートする企画です。一定の脊椎脊髄手術修練を経た外科医にとっては、誰もがやれて当たり前の手技であり、安定した治療成績が期待できる手術法です。しかしながら、汎用性が高いものの術者や施設によってそれぞれのポリシーと創意工夫があり、同じ頸椎椎弓形成術といってもバリエーションが豊富です。この術式は椎弓を再形成するということばかりではなく、至適な骨溝作成や脊柱管拡大範囲、筋靱帯組織の温存方法なども重要であり、椎弓間に使用されることの多いスペーサーについても材質や形状、設置方法の多様性が豊かで、まさに道具に関してもこだわりの強い術式ともいえます。また、頸椎局所の解剖や病理的特徴ばかりではなく、頸椎のダイナミック要素や全脊椎のバランスについても探求が進み、低い頻度ながらも生じる手術有害事象をいかに回避するかについても多くのエビデンスが蓄積されています。

本特集では頸椎椎弓形成術の歴史的経緯に始まり、術後合併症や不利益を生じないための術前評価のポイントや術中の注意点が整理されており、明日からの手術に役立つ実践的な内容となっています。

(高橋敏行)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素磨 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
谷 論 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘

Vol. 34 No. 10
(2022年3月4日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,500円+税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 33,300円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2022,
Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。